

海域管理計画モニタリング評価シート(案)

1. 調査対象に係る基本事項

構成要素	2. 沿岸環境
対応方針 または 保護管理 の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・遺産地域内海域の海洋環境の適切な保全のため、引き続き陸域からの汚染物質流出の防止に努める。 ・突発的な油流出による海洋汚染については、貴重な生態系保全等のため迅速かつ的確に措置を講ずる必要がある。 ・そのため、油流出による被害を局限するために、国や道・町など関係機関が協力して具体的な油防除対策を検討する必要がある。

2. 調査対象

海水	水温・水質・クロフィラ・プランクトンなど	生物相	○	有害物質
サケ類	スケソウダラ	トド		アザラシ
海鳥類	海ワシ類	利用の適正化		

3. 調査・モニタリング表

調査名称等	主な内容	06	07	08	09	10
11. 海洋汚染調査 (海上保安庁海洋情報部)	海水中の石油、カドミウム、水銀などの分析	○	○	○		

4. 評価

評 価	<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね横ばい <input type="checkbox"/> 改善
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 新規
備 考	<p>すべての項目とも、過去10年間と比較してほぼ同じ濃度レベルで推移している。基準値が設定されているカドミウム、水銀は基準値以下の濃度である。</p> <p>遺産地域内海域の海洋環境の適切な保全のため、海洋汚染に対する監視を引き続き行う必要がある。</p>

5. 調査、モニタリングの概要

調査・モニタリング名	11. 海洋汚染調査
主な内容	海水中の石油、カドミウム、水銀などの分析
対象地域	オホーツク海
頻度	年1回
調査主体	海上保安庁海洋情報部

■オホーツク海域の海水調査結果

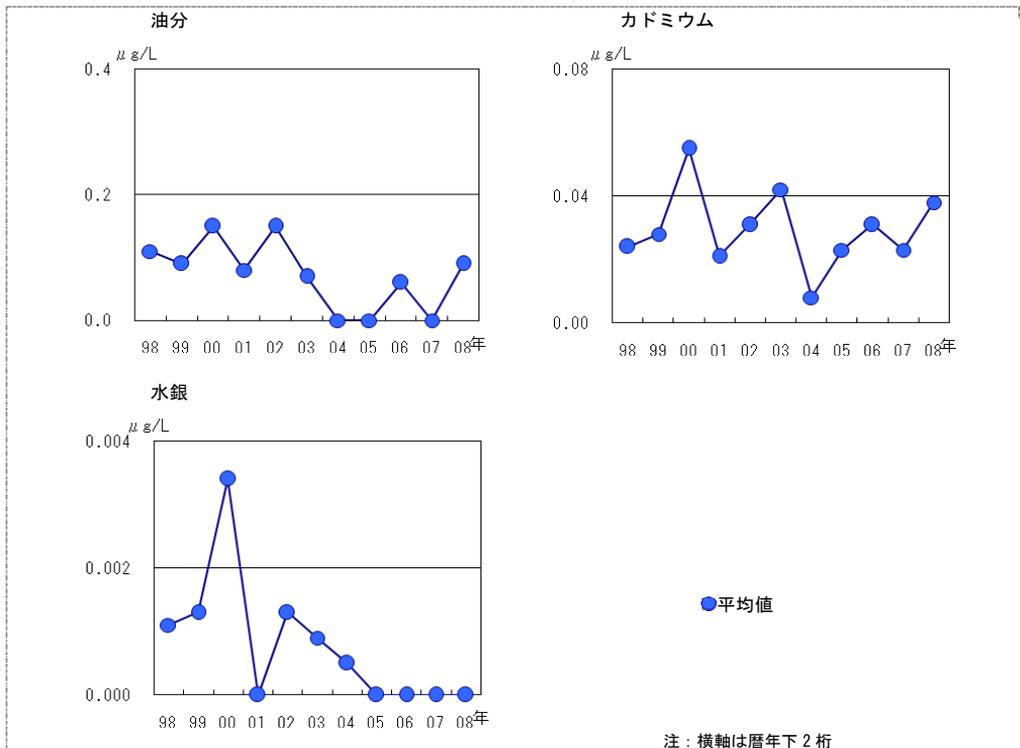
(単位: $\mu\text{g/L}$)

	平成 18 年 (2006)			平成 19 年 (2007)		
	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値
石油	0.06	0.06	0.07	<0.05	<0.05	<0.05
カドミウム	0.031	0.027	0.039	0.023	0.019	0.029
水銀	<0.0005	<0.0005	0.0008	0.0005	<0.0005	0.0005

	平成 20 年 (2008)			平成 10 から 19 年			基準値
	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	
石油	0.09	0.08	0.10	0.08	<0.05	0.30	—
カドミウム	0.038	0.036	0.039	0.029	0.004	0.065	10.00
水銀	<0.0005	<0.0005	0.0006	0.0010	<0.0005	0.0045	0.50

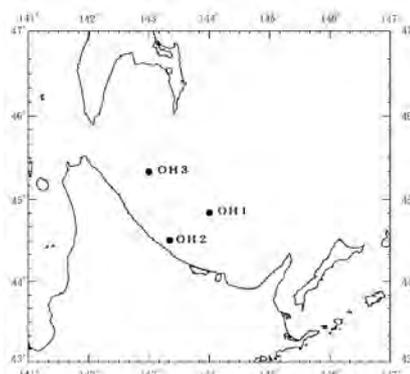
表出典: 海上保安庁海洋情報部「海洋汚染調査報告第 34~36 号」

調査結果概要



オホーツク海における表面海水の汚染物質濃度の経年変化

作図データ出典: 海上保安庁海洋情報部「海洋汚染調査報告」98~08 年



オホーツク海における試料採取位置